



**CAPTURE**

…この異様な世界に  
迷い込んで3日目…

今日も相変わらず  
ここは鉄と錆と  
血の匂いで  
充満している

…加えて見つかると  
襲いかかってくる  
バケモノ付きだ

何故ボクが  
ここにいるのか  
それはわからない  
…だが…

あった…!

……!  
……!



逃げたり戦ったり  
走ったりしながら  
役立つ物品を探す日々…

…この『縄』もそうだ  
一日掛けてようやく  
見つける事ができた…

そして

ボロい紐  
だけど…

今日ようやく  
『それ』を成し遂げた


ガ

チツ…

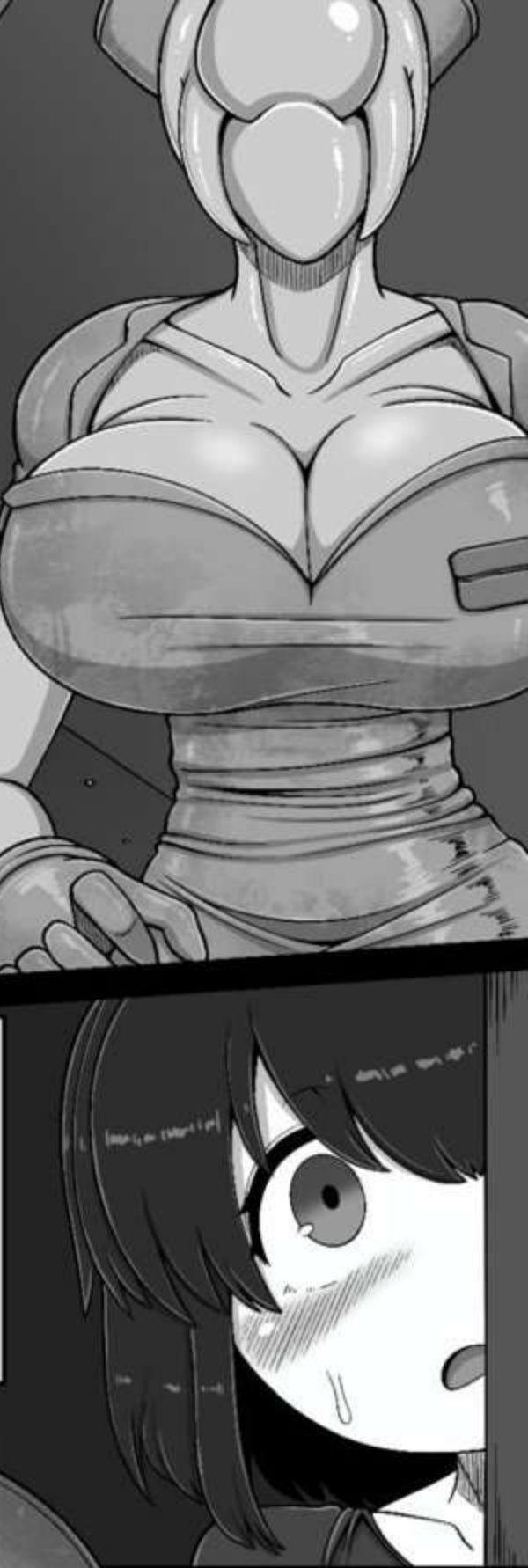
この異質な世界で  
見つけた彼女を

ついに  
手に入れたのだ…


CAPTURE



この閉鎖され  
鬱屈とした世界で  
あまりにも目立つ  
その『身体』に…



ボクは  
一目惚れにも  
似たものを  
感じた—



少し誘導して  
やるだけで  
すんなりと  
捕まってくれた…

むちっ♡

…幸い彼女は  
他のバケモノと違い  
ボクを襲う事はしない…

みちっ

みちっ

ぽ



るんっ

もう…  
ボクの  
ものだ…!

ぎし

ぎし

ちほ

んんん

んん

んん

んんん

んんん

んんん



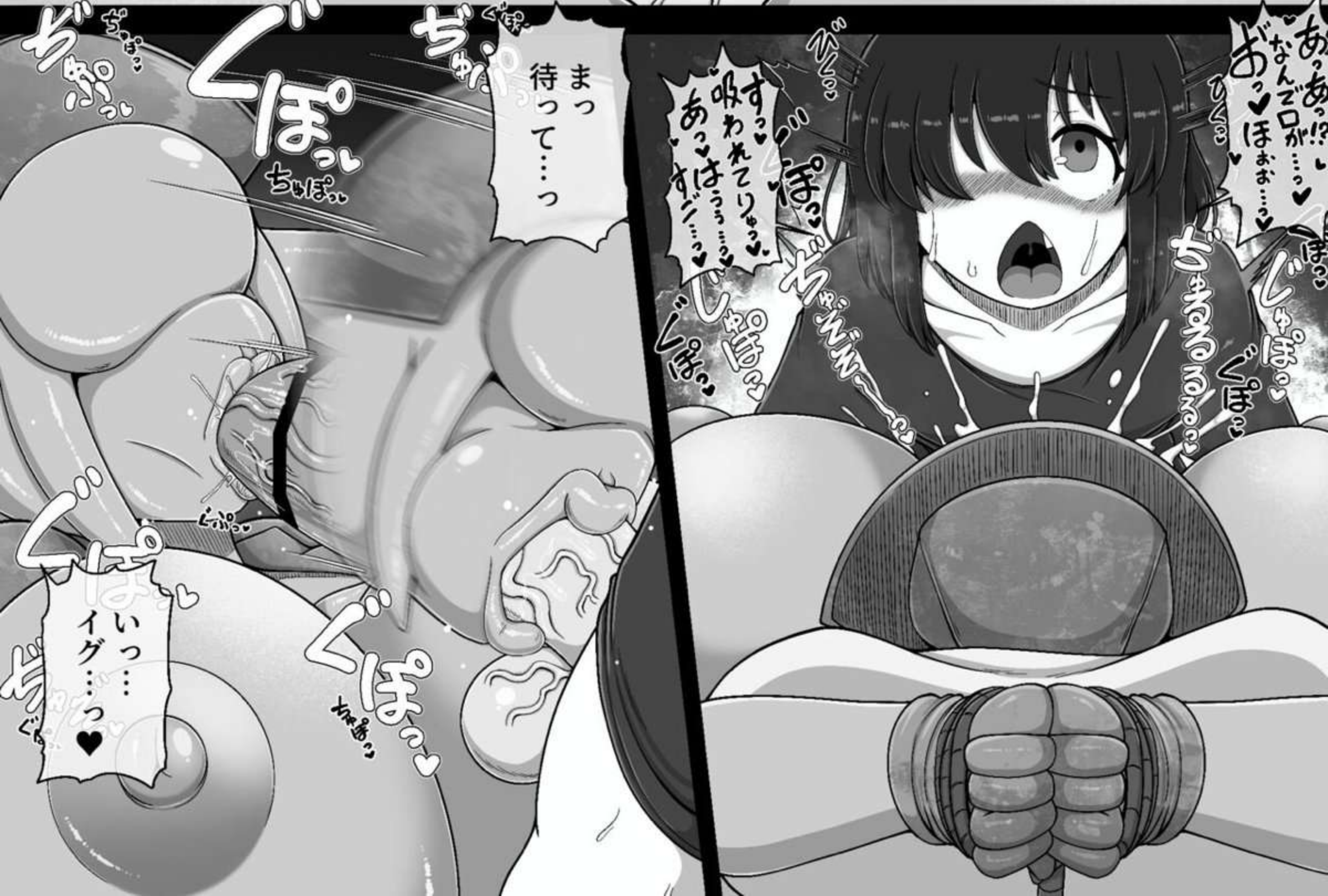




あっ!? えっ

じ

うああっ!?



まっ 待って...

ちぽ

ぐぽ

ちぽ

あっ!? えっ

あっ!? えっ

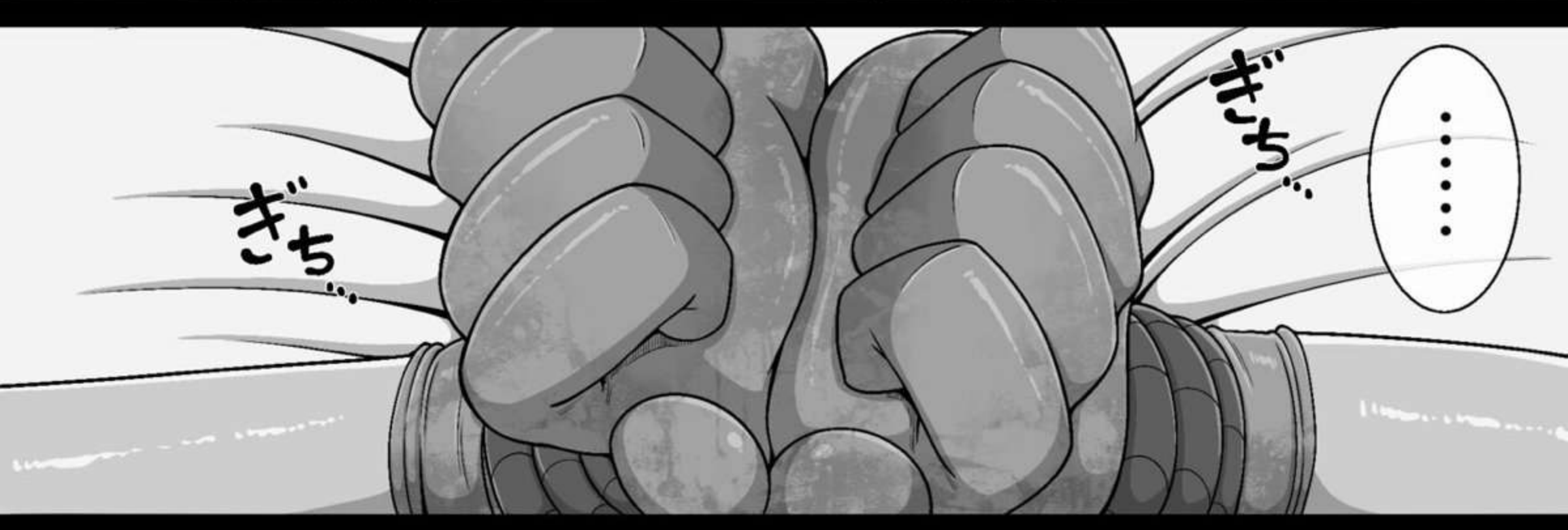
ぐぽ

ぐぽ

ぐぽ







：我ながら  
馬鹿な事を  
していると思う

ボクの精液を  
自分から飲む姿を見て  
拘束を解いてしまった…

案の定：  
彼女は全然  
抵抗しない



逃げたり  
暴れたりも  
しない…

身体はどこを  
触ろうと  
使おうと…

ずん…

ずん…

彼女は

ボクを  
受け入れて  
くれるらしい――

ぽあ♡

ん

ぞん

その魅惑的な仕草に  
理性は完全に崩壊し…

ボクは彼女と  
繋がった――

ぞっ…

にやう…

ちゅ

ちゅ



初めての箸の  
その行為は  
あまりにも甘美で  
熱くて肉厚で…

はぁはぁはぁ  
すっ…すっ…すっ…  
ちんぽん…  
ちんぽん…

「気持ち良い…  
二杯…三杯…  
好む…好む…  
好む…好む…」

感じた事のない  
大きすぎる快樂に  
ボクは目の前の  
彼女を犯す事しか  
考えていなかった







ちゅん

バ

ニャーニャー

ニャーニャー

びゅん

ニャーニャー

はあっはあっ♡  
すご…っ♡  
お尻大きい…っ♡

はん♡はん♡

ぱん

打ち付ける度に  
ぶるんぶるん  
跳ね返る…っ♡

ん



ふっうっ…!?  
ちちんぽ…  
なんかおかし…!?

おまんこ

……っ!?  
うっくっ  
あっ!?

射精っ♥  
止まらなっ♥

おまんこ

おまんこ

中が…  
狭くなって…!?

おまんこ



はあっ はああ…っ♥  
すごっ これっ♥  
気持ち良すぎるっ♥

射精するたびに  
おまんこが  
ぎゅうぎゅうして  
最っ高おお…っ♥

それもその筈…  
彼女の膣内に  
射精をする度に  
ボクの性器の方が  
大きく肥大化して  
いるようだった

これが他の  
バケモノにはない  
彼女自身の  
『攻撃性』なのか…

…何度も続く  
射精による幸福感で  
そんな事はもはや  
どうでもよくなっていた…



ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

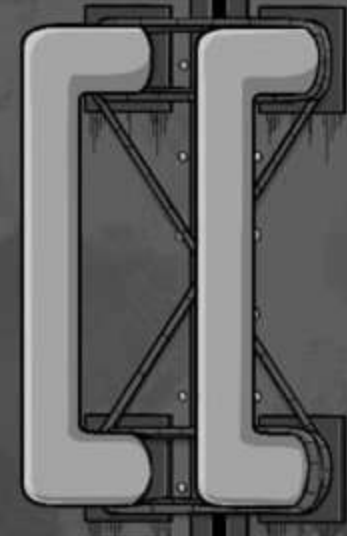
ズンズン



そうしてボクに  
この異変が  
蝕みだした頃

か  
ニッ

ガ  
ニッ



外にいた  
他の『彼女たち』にも  
異変が起きたようだ





…そしてボクは  
休む時間も与えられないまま  
彼女たちとこの空間で  
交わり続ける事になった…

……やはり  
捕まっていたのは  
…ボクの方だった…

